

この10年を振り返って

60th Anniversary



一般社団法人 大阪労働者福祉協議会

挨拶

結成60年、決意新たに勤労者福祉の前進へ

大阪労働者福祉協議会

会長 川口 清一



一般社団法人大阪労働者福祉協議会は戦後まもない、1952年（昭和27年）10月15日に「全大阪労働者福祉対策協議会」として結成され、60周年を迎えました。労働運動史を辿ってみると、結成当時は戦後の復興時期にあり、生後間もない私どもでありましたが、先人たちは当時の厳しい生活環境の中で、政治的なイデオロギーを超えて【福祉はひとつ】であるとの団結のもとに大阪労福協は結成されています。

その後、政府に対する社会保障などの福祉改善への要請、企業内福祉活動の対策、さらには労働金庫や生協法の基づく協働組合の誕生など勤労者の福祉向上に多くの取り組みがなされ、安定した、生活環境を求める活動の積み重ねによって、今日があると考えます。

しかし、近年はグローバルな経済環境となり、日本経済はデフレから脱却できず、さらには非正規の勤労者が4割を占めるといふ、不均衡な雇用構造は、労働福祉対策の重要なかつ根幹的な課題であるといえます。また、日本経済は、デフレ、財政赤字、円高、少子高齢化など、これまでの課題に加えて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復興という新たな課題にも対応しなければならない、まさに国難ともいえる状況にあり、労働者福祉対策をより強化していかねばなりません。

くしくも、本年は国連が定めた国際協働組合同年でもあり、国民が協同して支える地域社会づくりの必要性が求められています。このような背景の中での60周年という節目であります。大阪労福協の基本理念としています「働く人々とその家族の生活向上と安定をはかり、平和で豊かな暮らしを保障する社会の実現をめざす」ことを今一度確認する中で、その具現化のために、関係各位の引き続きのご指導とご支援をお願い致します。

祝辞

すべての勤労者の拠り所としての役割に期待

労働者福祉中央協議会

会長 古賀 伸明



大阪労福協が設立60周年という節目の年を迎えられたことを心からお慶び申し上げますとともに、設立以来さまざまな分野で勤労者の福祉の向上に尽力されてこられた歴代の役職員の方々をはじめ関係者のご努力に心から敬意を表します。

労福協は、戦後の廃墟の中から生活物資の確保をめざすという一点で組織の枠組みを超えて結集するところから生まれ、労働運動と協同事業がまさに車の両輪となって「助け合い」の輪を広げてきました。

東日本大震災で、私たちは「人と人とのつながり」の重要性や、万一の時を支える共済や融資など「共助」の仕組みがどれほど安心と勇気を与えてくれるか、改めて実感しました。今年は国連が定める国際協働組合同年でもあります。この記念すべき年に設立60周年を迎えるにあたり、もう一度創生期の初心を思いおこし、自らの存在価値を見つめ直すことは極めて有意義なことだと思います。

グローバル化経済のもとで貧困と格差が広がり、自殺や社会から孤立する人も増えています。経済成長は人間の幸せのためにあり、手段であって目的ではないという当たり前のところから社会を創り直さなければ、社会そのものが持続できないところまで来ています。中央労福協は「2020年ビジョン」の中で「市場の暴走を抑制するには連帯経済の領域の拡大が必要」と訴えてきましたが、国連が協働組合に期待する役割は、私たちがめざす社会像と重なり合い軌を一にするものです。

私たちは今、時代の大きな変革期を生きています。従来の延長線上ではなく、私たち自身が新しいコンセプトをつくっていく時代を迎えているのです。労働者福祉事業や協働組合も、これまでの共助を基盤としつつ、メンバーシップを超えたより社会的な事業や運動に果敢にチャレンジしていかなくてはなりません。

貴労福協が、これまでの活動で培われたネットワークを更に強固なものとし、すべての勤労者の拠り所として益々発展していくことを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



祝辞

多岐にわたる取り組みに心から敬意

大阪府知事 松井 一郎



一般社団法人大阪労働者福祉協議会が設立60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴協議会は昭和27年、全国で2番目の労福協として設立されて以来、勤労者のご家族の生活の安定と向上、豊かな暮らしを保障する社会の実現をめざし、様々な事業にご尽力され、大阪の労働者福祉の向上に大きく貢献してこられました。

労働相談から暮らし・生活分野までワンストップの問題解決をめざす「ライフサポートセンター」や、多重債務者の方々に対する「生活再建支援相談」、派遣切り等により仕事と住居を失った方々をサポートする「大阪希望館」への支援など、貴協議会のこれまでの取り組みに、心より敬意を表します。

大阪府におきましては、雇用情勢の厳しさが続くなか、雇用のミスマッチ解消などに取り組むとともに、障がい者をはじめとする就職困難者の就労支援など、労働者のセーフティネットを整備してまいります。また、「大阪産業人材育成戦略」に基づき、産業振興と一体となった人材育成に力を注ぎながら、大阪の中小企業で働く方々の頑張りを積極的にサポートしてまいります。皆様には引き続き、ご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお祈り申し上げます。

結びに、60年にわたる活動の成果を礎に、貴協議会が更に飛躍、発展されますことをお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

祝辞

福祉と環境の地域づくりにお力添えを

大阪市長 橋下 徹



大阪労働者福祉協議会が記念すべき設立60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協議会におかれましては、昭和27年に前身の全大阪労働者福祉対策協議会が設立されて以来、働く人々とその家族の生活向上と安定をはかり、平和で豊かな暮らしを保障する社会の実現をめざし、勤労者・市民の福祉向上に寄与してこられました。

さらに、労働団体・自主福祉事業団体との協力・連携を一層強められ、福祉と環境にやさしい地域社会の実現をめざして総合的な運動を展開されておられます。

これまでのご尽力、ご貢献に深く敬意を表しますとともに、60年の実績のうえに、さらなる躍進を期待申し上げます。わが国の景気は、大震災の影響をはじめ円高や原油高により、依然として厳しい状況にあり、非正規労働者が増加するなど厳しい状況が続いております。

大阪市では、国・大阪府とも連携して、雇用・失業情勢の改善に向けて多様な取り組みを推進し、一人ひとりが自己の能力を最大限に活かし、安心して働けるまちづくりに全力をつくしておりますので、皆様方には、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

設立60周年を機として、大阪労働者福祉協議会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。お祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝辞

地域の経済・産業の振興にご協力を

堺市長 竹山 修身



このたび、大阪労働者福祉協議会が設立60周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協議会におかれましては、昭和27年の創設以来、勤労者とその家族の生活向上と安定をはかり、平和で豊かな暮らしを保障する社会の実現をめざし、労働・福祉対策事業はもとより、文化・スポーツ、社会貢献事業に至るまで、多彩な活動に取り組み、勤労者福祉の向上に寄与して来られました。

また、本市を含む大阪南地域をはじめ、各地域の労働者福祉協議会を通じ、働く者それぞれの目線で、地域に密着した活動を展開され、地域の活性化にも多大なご貢献をいただいておりますことに、心より敬意を表する次第でございます。

わが国の経済は、依然として先行きへの不安が払拭できない状況にあり、雇用情勢も厳しい状況が続いております。

そのような中ではございますが、本市といたしましても、地域の産業が持続的に成長し、また、そこで勤める方々が元気に働き続けられるよう、地域経済の振興に取り組んでまいりますので、どうか皆様には、引き続きまして、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、大阪労働者福祉協議会のますますのご発展と、皆様のご活躍、ご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



大阪労働者福祉協議会のあゆみ(2002~2012)

大阪労働者福祉協議会は前身の全大阪労働者福祉対策協議会の設立（1952年10月）以来、「働く人々とその家族の生活向上と安定をはかり、平和で豊かな暮らしを保障する社会の実現をめざすこと」を目的に運動を推進してきた。

連合の結成（1989年）により労働団体間の意見調整という役割が減少することとなった大阪労福協は、新たな今後の活動の方向を模索するために1999年に長期構想検討委員会を立ち上げ、財政・運動のあり方・事務局体制について検討した。協議の結果、大阪労福協内にあったユニオントラベルの業務を2002年から(株)アルファオメガに委託（2007年12月に旅行業務登録抹消につき消滅）することとし、それに合わせて2003年5月より事務局体制を変更した。

2003年9月には新構想委員会を立ち上げ、引き続き大阪における労働者福祉活動についての検討を続けることとなったが、その活動の基盤としてきた府立労働センター（エル・おおさか）が指定管理者制度を導入することとなり、センターの運営を担ってきた大阪労働協会との連携が不確定となったため、新構想委員会の路線は変更を強いられることとなった。新たに2008年に中長期ビジョン検討委員会を立ち上げ、いわゆる橋下改革によって大阪府・大阪市の補助金が全廃されるという事態を受けて組織財政強化対策部会を設置した。さらに1996年に社団法人となった大阪労福協は公益法人制度改革による法人移行について検討する必要が生じたため、公益法人移行検討部会を設置、小委員会による討議を進めた結果、一般社団法人への移行を決定、2012年9月に移行した。また、2012年から新たな諸団体連携について試行を始めている。

このほか、2000年代の労福協運動の新たな柱として全国的なワンストップサービスサポート事業（総合生活支援サービス体制）を進めており、近畿労金・全労済大阪府本部・連合大阪・大阪労福協・大阪社労士の五者の共同によって現在ライフサポートセンターを府内5つの拠点に開設している。1997年から地域密着型の運動を推進するために大阪府内に地域労福協を順次設立、各地域独自の事業を展開している。また、毎年大阪府・大阪市に対し労働者福祉施策について要請行動を行っている。

近年、大阪労福協が取り組んでいる事業には、1. 時局講演会 2. なにわ美術展 3. ランチタイムコンサート 4. 退職者準備セミナー 5. 税務相談会 6. 多重債務相談事業 7. ボウリング大会（～2009年）などがある。また、改正貸金業法制定運動のような市民生活に密着した運動や、東北支援活動のような時宜にあわせた活動、さらに「大阪希望館」事業のように他団体との連携によって格差・貧困社会を支えるセーフティネットに関わるなど多くの社会貢献事業を展開している。

労働者福祉協議会のはじまり

中央労働者福祉協議会の前身、中央物対協（労務者用物資対策中央連絡協議会）は1949年（昭和24年）8月30日に戦後の混乱のなか労働者のための食料（米の配給）増量を求めて、関係36団体の労働組合と組合員によって設立。1957年に中央労福協（労働福祉中央協議会）に名称を変更し、さらに1964年に現在の中央労福協（労働者福祉中央協議会）となった。

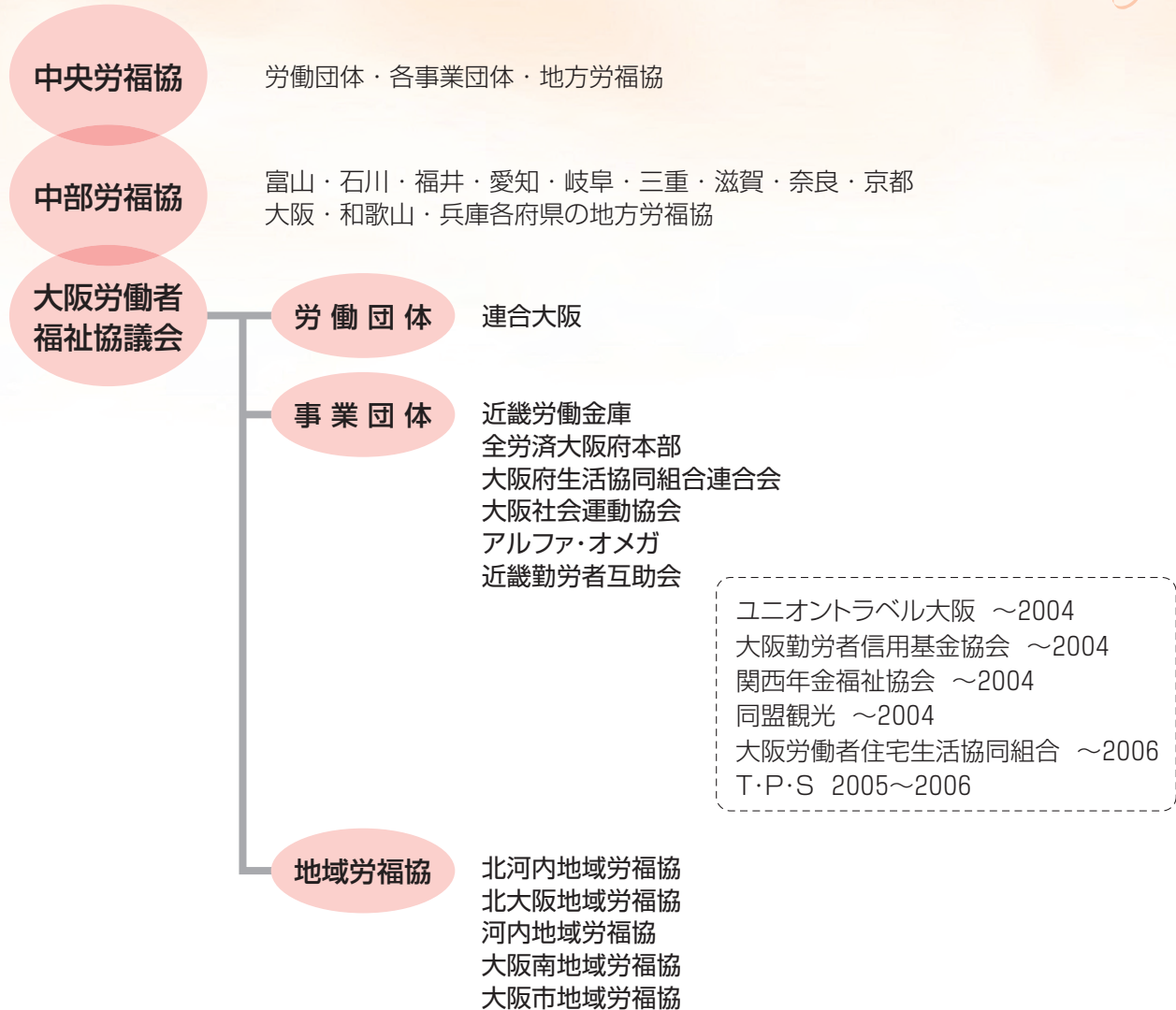
大阪労働者福祉対策協議会は、1952（昭和27）年に全国で2番目の労福協として誕生した。

大阪労福協の設立当初は、食料の確保と対策、生活物資のあっせんなどが主な課題だったが、取り組みを深めるなかで、働く人々の安定した将来に向け、数々の社会保障・福祉問題の解決にも力を注いできた。

同時に勤労者の自助努力を支援するために、「消費生活協同組合法」に基づく自主福祉事業（生協）を設立。大阪労働金庫や、全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会）、大阪住宅生協（大阪労働者住宅生活協同組合）の誕生に大きく貢献した。



労働者福祉協議会構成図



地域労福協の設立について

地域労福協の設立に当たっては1994年11月の理事会において、府域に中央および地域の福祉活動を一体的に前進させること、また、労福協活動を地域に定着させ労働団体や各事業団体の影響力を各地の未組織や企業内組合また地域市民層の間に拡大して行くこと、として、地域労福協設立に向けた準備作業委員会(1995年1月)を発足することが提起・確認した。その後、各地域で設立の作業委員会による審議を進め、下記に示すような時期に5地域労福協が誕生し、それぞれの地域の風土にあった活動を進めている。

〈設立時期〉

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| ①北河内地域協 | 1997年 9 月 | ②北大阪地域協 | 1997年11月 |
| ③河内地域協 | 1998年 3 月 | ④大阪南地域協 | 1998年 8 月 |
| ⑤大阪市地域協 | 1999年 2 月 | | |

事業

ライフサポートセンター・生活安心ネットワーク大阪

2005年8月4団体（中央労福協・連合・労金協会・全労済）は目的を同じくするNPO諸団体とも連携し、全国の都道府県における地域を拠点としたワンストップサービス（総合生活支援サービス体制）の実現に向けた共同の体制作りを進めることを合意・確認した。これを受け、各都道府県は4団体を中心とした具体化の検討の場を設置し、取り組みを進めてきた。大阪においては、4団体に大阪府社会保険労務士会も加わった5者によって、2006年6月に実行委員会（地域活動フォローアップ委員会、その後ワンストップサービス実務会議に変更）を立ち上げ制度化への検討を行ってきた。そして、1年半の議論経過から2008年1月に本部を大阪労福協とする、3地域（大阪市・北河内・大阪南）先行による、LSC（ライフサポートセンター・生活安心ネットワーク大阪）を開設した。その2年後、北大阪・河内でも体制が整い5つの全地域で活動することとなった。

時局講演会

労福協事業の文化的な活動趣旨に沿った講演会を大阪労働協会や近畿勤労者互助会の共催及び近畿労金・全労済等の事業団体の後援で開催してきた。



藤井聡講演会

講演会チラシ

年度	講師	演題	参加者数	場所
2003年度	イーデス・ハンソン	高齢化社会のライフスタイルを考える	450	エル・シアター
2004年度	寺島実郎	世界の中の日本の中の大阪、その可能性を語る	678	エル・シアター
2005年度	石毛直道	食い倒れの系譜・大阪の食文化	320	エル・シアター
2006年度	井筒和幸	映画人生を語る	586	エル・シアター
2007年度	立松和平	自然との共生	504	エル・シアター
	金子勝	日本経済と格差社会を語る	596	エル・シアター
2008年度	浜村淳	源氏物語 花はむらさき	675	エル・シアター
	堀田力	ふれあい社会をめざして	550	エル・シアター
2009年度	森永卓郎	経済と戦争はつながっている	600	エル・シアター
2010年度	難波利三	人間ばんざい	750	エル・シアター
2011年度	辛坊治郎	テレビのミカタ	660	エル・シアター
	寺島実郎	日本の内なる成熟と世界の構造転換	350	エル・シアター
	藤井聡	日本復興計画～東日本復活5カ年計画と列島強靱化10カ年計画	82	エル・おおさか会議室
	大林組社員	東京スカイツリーをつくる	159	エル・おおさか南ホール
2012年度	三橋貴明	メディアの大罪	208	エル・おおさか南ホール



「なにわ美術展」

「労働＝働く」を中心テーマに日本画、洋画、版画の美術展として、すでに23回開催してきた歴史ある「全大阪働く者の美術展」を、多数の方々の要望や専門家の意見も取り入れながら、2004年に第1回「なにわ美術展」として引き継いだ。テーマも時代の流れにあわせて「大阪＝なにわ」「人＝生活」「自然＝環境（空、大地、水）」とし、21世紀に相応しい大阪を代表する美術展に発展することを目指した。来年の2013年には10回目を迎える。

毎回200点近くの作品と900名を超える観覧者がある。「誰でも参加できる美術展」「出展作品は全て展示」をモットーに多くの美術愛好家に親しんでいただいている。

〈過去の出品数及び観覧者〉

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
出品数	192	168	175	147	172	221	177	192	184
観覧者	935	835	850	836	769	1065	911	955	941



第9回なにわ美術展表彰式

ランチたいむコンサート

昼のひと時にクラシックやポピュラー等の音楽を楽しんでいただこうと、2001年10月から行っている。大阪労働協会が主担し、大阪労福協は文化事業の一つとして分担金を拠出し共催している。

毎月第3月曜日、会場はエルおおさかの10F宴会場。毎回80名前後の参加者があり演奏者はバラエティに富んでいる。2010年2月には通算100回を迎え、エルシアターで記念コンサートを開催した。



ランチたいむコンサート

退職準備セミナー

2007年からは団塊の世代が続々と60歳を迎え、700万人の人たちが退職を迎えていた。中央労福協は、日本社会全体の構造が大きく転換していくことに対応して、世代間の助け合いを一層進め、パワフルでアクティブなシニアの登場「エイジレス社会の挑戦」を提起していた。

そのような動きを受け、大阪労福協では、中小企業の労働者にも積極的に参加していただけるように、退職後の生活設計を立てるための、年金・雇用保険・医療保険に関する専門の講師によるセミナーを2005年2月に開始した。現在では、近畿労金、全労済、NPOふるさと回帰支援センターの協力を得ながら府内の5地域の会場においてそれぞれの地域労福協と協力して開催している。



退職準備セミナー

多重債務相談事業

2004年度に多重債務相談事業を立ち上げ、各地域労福協で労金OB等の相談員による相談を受け付け、負債整理に向けた生活再建支援活動を行っている。

いわゆる「サラ金」問題は80年代から顕著になり、2000年代にピークを迎え大きな社会問題となった。多重債務者は単に借金問題だけでなく、家族や教育など様々な生活問題を抱えているケースが多く、多重債務相談事業は、駆け込み寺としての役割を果たしている。行政窓口との連携を図っている北河内地区をはじめ、府内の数多くの相談者に関する生活再建を支援し大きな成果を上げている。

その他

税務研修会として労働組合の会計処理についての研修を中心に近畿労金、全労済の会員組織や構成組織を対象に「税務相談会」を実施してきた。

ボーリング大会は、各地域労福協を勝ち抜いたチームによる決勝大会を開催してきたが、財政的な負担も含めた労福協活動の見直しにより、2009年を最後に廃止することになった。

特徴的な活動

改正貸金業法制定運動と大阪貸金特区反対の取組み

2010年6月、中央労福協をはじめとする全国の労福協の運動が大きく寄与した改正貸金業法が完全施行されたにも拘らず、7月大阪府は「貸金特区構想」なるものを発表し政府に特区申請を行った。その内容は、貸金の総量規制及び金利規制により多重債務者の発生を抑制するという貸金業法改正の趣旨を無視するものであった。

大阪労福協は、多重債務問題に尽力してきた弁護士・司法書士・被害者の会・大阪いちょうの会などと連携、9月には「貸金特区構想に反対する市民集会」を開催するなど反対運動を展開し、10月には政府の申請却下となった。



貸金特区

「9.23 大阪から元気を届けようチャリティバザール」「3.11 from KANSAI」

2011年3月11日の東日本大震災は私達にとって「国難」となった。東北そして日本の復興に向けた助け合いが求められている。大阪労福協は、連合大阪とともにチャリティバザールを企画し、府内の行政組織、政党、経済界、労働団体、民主団体、社会福祉協議会、NPO等に幅広く参加を求め開催した。

9月23日当日の参加者数5846人。会場カンパ額24万8748円。東北からの避難者200人の参加という大きな成果をあげることができた。(チャリティバザール実行委員会は、大阪労福協、連合大阪、民主



チャリティーバザール



党大阪府連、社民党大阪府連、部落解放同盟大阪府連、NPO ふるさと回帰支援センター、大阪府・大阪市・堺市社会福祉協議会、泉州地方労働組合連合会、大阪社会運動協会、泉南生活協同組合、大阪府生活協同組合連合会、各種NPOで構成)



OSAKAチャレンジネット(住居喪失不安定就労者支援センター)

OSAKA チャレンジネットは、住宅が無く、インターネットカフェ、漫画喫茶、サウナ等で寝泊りをしている「住居喪失不安定就労者」を対象にした就労相談や生活相談を行っている。相談者の多くは、非正規労働者や失業者であるとともに、様々な社会的困難を背負った方々で、就労の前に福祉的な援助を要する人たちも数多く、適切な対応が求められている。

この事業は、ホームレスの自立支援に関する特別措置法に基づき、2008年に厚生労働省から大阪ホームレス就業支援センターが委託を受け、大阪労福協がその運営を行っている。

大阪希望館事業

大阪希望館は、NPO、宗教団体、労働組合など各種団体、企業、個人の方々の会費と寄付などを中心に大阪らしい市民のネットワークで設立され、今年(2012年)で3周年を迎えた。スタート以来、約60人の方々が利用された。デフレ経済が続く中、若年層の失業問題は深刻である。住居喪失を余儀なくされた若い人が、健康や生活面の課題を乗り越え、必要な職業訓練を受け、資格を取得し就職につなげる場が必要となっている。

大阪希望館は、「支え合い」の気持ちを共有する市民をつなぎ、地域の民家住宅や民間事業を「社会資源」として位置づけ、中心に「相談センター」を、周りに緊急宿泊先やチャレンジ就労を配した、再出発を支援する市民主体の運動である。大阪労福協はネットワークのひとつとしてその役割が期待されている。



希望館第2回総会

広 報



機関紙『ラポール』



第1回 HP



第2回 HP



現行 HP

大阪労福協のホームページは3回にわたってリニューアルされている。「チキチキちい記」のページでは、大阪労福協や5地域労福協の活動や企画行事の詳細が報告されていて好評だ。機関紙『ラポール』は毎月1日付で発行している。

60th Anniversary



	事業	内容
7.1	労働者安心ネットワーク推進事業	大阪府と委託契約。大阪府内の上部団体加盟のない労働組合への聞きとり調査を開始。
7.16	税務サポート研修会	講師：中原俊男税理士。参加者85名。テーマ「労働組合会計と税務対応」
7.14	第38回全大阪働く者のスポーツ祭典	バレーボール大会（7月14日）・ボウリング大会（11月7日）
11.15～20	第23回全大阪働く者の美術展	エル・おおさか
11.22	大阪労働者福祉協議会設立50周年記念式典・祝賀会	太田房江知事、土崎大阪市助役、前田連合大阪会長から祝辞 東天紅 108名

2003年

第40回総会（5月28日） エル・おおさか		
2.13	講演会「いきいき生きるわらじ医者の元気になるお話」 講師：早川一光	エル・おおさか南館5階ホール 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪市地域労働者福祉協議会
7.22	労働者安心ネットワーク事業（前期・後期）	大阪府と契約
7.28	税務研修会	近畿労金大正支店。参加者100名。
9.8	大阪府・大阪市との意見交換会・懇談会	エル・おおさか（大阪府9月8日） アピオ大阪（大阪市9月17日）
9.17	新構想委員会	エル・おおさか
11.21	第5回大阪労協ボウリング決勝大会	
12.16	講演会「高齢化社会のライフスタイルを考える」 講師：イーデス・ハンソン	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会

2004年

第41回総会（5月28日） エル・おおさか		
2.6～11	第1回なにわ美術展	エル・おおさか3階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会 協賛：大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
3.5	講演会「年金はどうあるべきか、どうなる年金」 講師：渡辺俊介	エル・おおさか南館5階 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪市地域労働者福祉協議会、大阪労働協会
7.4	無料税務相談	7/5～9/13
10.25	労働者安心ネットワーク事業後期事業開始	
11.19	第5回大阪労協ボウリング決勝大会（大阪全労済創立50周年記念）	
12.3	講演会「世界の中の日本、日本の中の大阪、その可能性を語る」 講師：寺島島郎	エル・シアター 大阪センチュリー交響楽団員による弦楽四重奏 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会 後援：大阪府

2005年

第42回総会（5月26日） エル・おおさか		
2.4～9	第2回なにわ美術展	エル・おおさか3階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会 特別協賛：全労済大阪府本部 後援：大阪府、大阪市
3.22	講演会「今 伝えたいこと」 講師：永六輔	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会、教育文化協会、連合大阪、大阪市地域労働者福祉協議会
8～12	退職準備セミナー	
8.5	労協ガイドブック『ラポール』発行	
9.7,15	無料税務相談	
11.5	第6回ボウリング決勝大会	ポウルメイト京橋
11.22	講演会「食い倒れの系譜 大阪の食文化」 講師：石毛直道	エル・おおさか 主催：大阪労働協会、大阪労働者福祉協議会 後援：大阪府

2006年

第43回総会（5月26日） エル・おおさか		
2.3～8	第3回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会 協賛：大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
3.30	講演会「映画人生を語る」 講師：井筒和幸	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪市地域労働者福祉協議会、大阪労働協会 後援：近畿労働金庫
7.26	税務研修会	講師：中原俊男税理士 エル・おおさか
11.17	第7回大阪労協ボウリング決勝大会	ポウルメイト京橋

2007年

第44回総会（5月24日） エル・おおさか		
第45回総会（10月31日） エル・おおさか		
2.2～7	第4回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会 協賛：大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
2.23	講演会「自然との共生」 講師：立松和平	エル・おおさか 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会 大阪市地域労働者福祉協議会
3.12	講演会「日本経済と格差社会を語る」 講師：金子勝 ミニ・コンサート	エル・シアター 主催：大阪労働協会、大阪労働者福祉協議会
6.19	税務研修会	講師：中原俊男税理士 エル・おおさか
7.5	個別無料税務相談会	相談担当：中原俊男税理士ほか エル・おおさか



	事業	内容
	11.2 第8回大阪労協ボウリング決勝大会	桜橋ボウル
	1.15 ライフサポートセンター・生活安心ネットワーク大阪 (LSC) オープン	
	1.22 講演会「源氏物語～花はむらさき～」 講師：浜村淳	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会
2008年	第46回総会 (10月28日) エル・おおさか	
	2.1～6 第5回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会 協賛：大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
	1.11 第1回ライフサポートセンター相談員研修会	エル・おおさか11階中会議室
	3.17 講演会「ふれあい社会をめざして」 講師：堀田力	エル・シアター 主催：大阪労働協会、大阪労働者福祉協議会、大阪市地域労働者福祉協議会
	4.1 ライフサポートセンターをグランドオープン	
	4.28 OSAKAチャレンジネット・プレオープン	
	5.12 OSAKAチャレンジネット オープン	開所式：厚労省、大阪労働局、大阪府商工労働部、大阪市健康福祉局、連合大阪、大阪労働者福祉協議会、ホームレス就業支援センター、釜ヶ崎支援機構
	9.16 税務研修会	講師：中原俊男税理士 エル・おおさか
	11.11 第9回大阪労協ボウリング決勝大会	桜橋ボウル
2009年	第47回総会 (10月28日) エル・おおさか	
	1.9 講演会「戦争と経済はつながっている～本当に幸せをもたらす社会とは」 講師：森永卓郎	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会、大阪市地域労働者福祉協議会、近畿勤労者互助会 後援：近畿労働金庫大阪府本部、全労済大阪府本部
	1.30 働く人の健康フェア	主催：大阪労働協会、大阪労働者福祉協議会、大阪府労務改善集団連合会、大阪府勤労者福祉推進者懇談会
	3.13～18 第6回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会 協賛：大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
	7.11 大阪希望館設立総会・設立記念集会	大阪人権センター 浪速人権文化センター
	11.10 第10回大阪労協ボウリング決勝大会	桜橋ボウル
2010年	第48回総会 (10月28日) エル・おおさか	
	2.5～10 第7回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会 協賛：大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
	2.10 ランチタイムコンサート通算100回記念コンサート	主催：大阪労働協会、大阪労働者福祉協議会
	2.12 講演会「人間ばんざい」 講師：難波利三	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会、大阪市地域労働者福祉協議会、近畿勤労者互助会 後援：近畿労働金庫大阪地区統括本部、全労済大阪府本部
	2.18 中部労協第40回定期総会・結成40周年記念レセプション	シティプラザ大阪・旬の間 記念講演「労協の理念と2020年ビジョン」講師：高橋均
	7.31 大阪希望館設立1周年記念集会	大淀コミュニティセンター
	11.28 シンポジウム「おおさかをだれもが働ける、セーフティネットのまちに」	主催：大阪希望館運営協議会
2011年	第49回総会 (10月31日) エル・おおさか	
	2.4～9 第8回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
	3.3 講演会「テレビのミカタ―2011年の政治と経済」 講師：幸治治郎	エル・シアター 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会、近畿勤労者互助会 後援：近畿労働金庫大阪地区統括本部、全労済大阪府本部
	3.28 講演会「日本の内なる成熟と世界の構造転換」講師：寺島実郎	エル・シアター
	7.30 大阪希望館設立2周年記念集会	記念講演「なにわ文化と人情ばなし」講師：難波利三 大淀コミュニティセンター
	8.26 講演会「日本復興計画―東日本復活5ヵ年計画と列島強靱化10ヵ年計画」講師：藤井聡	エル・おおさか708号室 主催：大阪労働者福祉協議会
	9.23 9.23 大阪から元気を届けようチャリティバザール	マイドームおおさか
	12.17 シンポジウム「ホームレス自立支援法と困窮者対策を考える」	ヴィアーレ大阪 主催：シンポジウム実行委員会 (連合大阪、大阪労働者福祉協議会、釜ヶ崎支援機構、釜ヶ崎反失業連絡会等)
2012年	2.3～8 第9回なにわ美術展	エル・おおさか9・10階ギャラリー 主催：大阪労働者福祉協議会、大阪労働協会 後援：大阪府、大阪市
	3.14 特別講演会「東京スカイツリーをつくる」 講師：大林組社員	エル・おおさか南館5階南ホール 主催：共同事業体エル・プラン (大阪労働協会、大林ファシリティーズ株式会社)、大阪労働者福祉協議会



大阪市地域労福協

大阪市

大阪労福協設立60周年おめでとうございます。
 大阪市地域労福協は、大阪市内に所在する連合大阪市地域協議会や福祉事業団体が中心となり、勤労者の福祉活動を総合的に推進するための自主福祉事業の普及に努め、勤労者とその家族の豊かな暮らしに貢献することを目的に活動展開しています。

働く人々を取り巻く厳しい状況に対し、様々な相談にワンストップで問題の解決をめざす「ライフサポートセンター大阪中央」相談事業も実施しており、これからも行政との連携強化など、労福協事業を充実してまいります。



大阪市地域労働者福祉協議会
 会長 須川 伊和夫

大阪市地域労働者福祉協議会（大阪市労福協）は1999年2月に結成された。「金融・共済・住宅・生協・旅行などの関連事業を推進し、地域の勤労者とその家族の豊かな暮らしづくりに貢献する」というのが結成時に確認された事項であったが、10数年の間に社会的情勢は大きく変化し、大阪市労福協に求められる役割も大きく変化した。組織体制も、2005年の臨時総会において、それまでの市内第1地域・市内第2地域・市内第3地域という区割りを廃止、新役員体制で臨むこととなった。

大阪市労福協は最初大阪キャッスルホテル4階に事務所を構えていたが、2001年にエル・おおさか4階に移転、大阪労福協事務所の隣という立地条件もあり、大阪労福協と講演会（「食い倒れの系譜・大阪の食文化」石毛直道2005、「自然との共生」立松和平2007など）を共催するなど連携してきた。大阪市労福協独自のものとしては社会全体が高齢化する中、関心の高まっていた年金についての講演会（「年金はどうあるべきか・どうなる年金」（講師：渡邊俊介、2004年）を開催した。



結成総会 1999年2月26日

大阪市地域労働者福祉協議会 〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14 府立労働センター4階 TEL: 06-6966-5438 FAX: 06-6966-5498

役員変遷	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
会長			瀬戸川 徹 (栗本鉄工所労組)	下野 武志 (関西電力労組)	宮本文粹 (シャープ労組)			上田良則 (大阪ガス労組)		徳永秀昭 (大阪市職)
事務局長			三島 一郎 専従(大阪市職)		有元 幹明 専従(大阪市職)		梶山輝昭 専従(住友金属大阪労組)			

(旧事務所) 大阪市中央区天満橋京町1-1 キャッスルホテル4F (2002年移転)



大阪市労福協は活動基盤が大阪市ということで他地域とは異なった特殊性があるため、地域住民への支援に留まらず、生活不安を抱える人々の支援活動にも大きな役割を果たしている。大阪労福協の事業の主軸であるライフサポートセンター事業においても2008年の事業開始以来、多数・多彩な相談が寄せられてきた。また、大阪労福協が運営するOSAKA チャレンジネット（住居喪失不安定就労者支援センター）の開設時（2008年）の相談窓口は大阪市地域労福協であった。

行政と連携した取り組みとして、2000年から2006年まで大阪市の委託で、労働時間の短縮や週休二日制の普及は進んでいるか、勤労者が余暇（自由時間）を日常生活にどのようにいかしていくかを調査する「ゆとり調査」（2003年から「労働時間及び余暇に関する調査」に改称）を行った。相談業務ではなく、調査業務という点で特色ある取り組みであった。

ファミリー行事としては2002年に「第1回元気を出そうファミリー納涼祭」を松坂屋屋上にて開催した。第2回（2004年）以降は新阪急ホテルオリンピアで開いており、300人ほどの家族連れが参加する夏の恒例行事となっている。ボウリング大会は2012年で14回を重ね、大阪労福協の大会が取りやめになった後も継続して開催している。2002年に第1回福祉チャリティゴルフコンペを開始以来、毎年開催、募金活動を続けている。



音楽祭 なにわカーニバル（1999年2月26日）



大阪市へチャリティー基金を寄付（2002年9月26日）



労福協講演会の様子（2004年3月5日）



労福協OB会結成総会（2009年10月30日）



第1回ボウリング大会（2000年2月22日）



2012年夏・元気に乗り切ろう！ファミリー納涼祭（2012年7月27日）

<http://www.osakarofukukyo.or.jp/chiiki/osakashi.shtml>

2007	2008	2009	2010	2011	2012
徳永 秀昭 (大阪市職)			須川 伊和夫 (大阪ガス労組)		
梶山 輝昭 専従(住友金属大阪労組)		坂本 眞一 専従(大阪市職)		廣石 健次 専従(大阪市職)	



北大阪地域労福協

高槻市・茨木市・摂津市・吹田市・豊中市・池田市・箕面市・島本町・豊能町・能勢町



結成総会 1997年11月25日

大阪労福協 60周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

北大阪地域労福協は、北大阪7市3町に所在する連合北大阪地域協議会や福祉事業団体を中心に、勤労者とその家族の地域福祉の強化に向けて、個人の趣味や活動が多様化する中で、あえて団体で同じことをみんなで共有し、共感することを目指して各地域で活動を展開しています。地域性を活かしたガンバ大阪と連携したサッカー教室など、各種の行事を開催しています。

今後とも、大阪労福協の一員として各種団体と連携し、地域福祉の強化に取り組んでまいります。



北大阪地域労働者福祉協議会
会長 松倉信之

北大阪地域労働者福祉協議会（北大阪労福協）は、1997年11月に結成、地域の勤労者とその家族の「豊かな暮らしづくり」に貢献することを目標に取り組みを進めてきた。労福協活動の大きな活動のひとつに相談業務があるが、地域協の中でも一早く行政と連携し、2000年1月から豊中市失業者・勤労者生活再建支援相談を開始（～2008）、翌2001年には茨木市失業者生活再建相談（～2008）・豊中市パート労働相談（～2004）、2002年には高槻市失業就労総合相談（のち高槻市失業者・勤労者生活再建相談、～2008）と北摂における主要市の就労相談事業を担った。高槻市・茨木市の相談は相談員を派遣して各市役所内において、豊中市の相談事業は北大阪労福協事務所内で行った。

毎年多数の利用を得ているのが確定申告相談会である。2000年から始めた相談会は、当初「サラリーマンのための確定申告相談会」と銘打っていたが、2005年からは「勤労者の」と改め、対象を拡大した。さらに2010年からは地域全体への貢献という地域労福協の姿勢に鑑み、対象者

北大阪地域労働者福祉協議会 〒561-0881 大阪府豊中市中桜塚2-12-9 新桜塚ビル3階 TEL: 06-6842-0355 FAX: 06-6842-0366

役員変遷	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
会長	長谷川 元治郎 (大阪ガス労組)				渡 壁 長 則 (ダイハツ労組)					
事務局長	山 本 修 非専(豊中市職)					園 田 隆 弘 専従(松下電器労組)				

(旧事務所) 豊中市岡町8-11 シティヒルズウオアサ202 (2006年移転)



を絞らない「確定申告相談会」とした。

地域への取り組みとしては、2002・2003年に取り組んだ「子どもたちの囲碁教室」が挙げられる（豊中市後援）。障がいを持った子どもたちの居場所づくりとして月2回、豊中労働者福祉会館において開催。講師は北大阪労福協の相談員がボランティアで務めた。

各地域労福協でとりくまれてきたボウリング大会だが、北大阪地域協ではファミリーボウリング大会（2000～2009）と家族参加の事業として行ってきた。2009年からはさらにファミリー行事を拡大、「ブドウ狩り」（青蓮寺湖、2009）、「ほのほの牧場体験」（能勢大阪府民牧場、2010）、「親子でサッカー教室&ガンバレ！ガンバ！」（万博記念競技場、2010）、「水荃焼陶芸の里と水郷めぐり」（近江八幡、2010）などを企画した。「水荃焼陶芸の里と水郷めぐり」に連動して写真展を開いた（第1回2011、第2回2012）。北大阪地区の特色として地域内が豊能筋・三島筋に大きく分かれている点がある。その特色をいかし、それぞれの地区ごとの活動を生かす取り組みを2010年から企画に反映させている。

他地域に先駆けて料理教室を開催してきた北大阪労福協であるが、当初は「男の料理教室」と台所経験のない男性を対象としていた。2004年からは男女ともに参加できるように「お楽しみ料理教室」と改称（～2009）、今後は親子行事の拡大に伴い、食育をテーマとした親子料理教室として開く予定もある。また、長らく常備薬斡旋事業を地域内で展開している。

チャリティー行動としては、第1回チャリティーゴルフコンペを2010年に開催した。2011年3月27日には「東日本大震災」へのチャリティー活動の一環として行われたガンバ大阪とヴィッセルのチャリティーマッチに賛同、チケットあっせん販売に協力した。



北大阪労福協 5周年記念（2002年10月）



ファミリーボウリング大会（2003年9月）



子どもたちの囲碁教室（2004年8月）



男の料理教室（2006年4月）



ほのほの牧場体験（2010年5月）



退職準備セミナー（2007年4月）

<http://www.osakarofukukyo.or.jp/chiiki/kitaosaka.shtml>

2007	2008	2009	2010	2011	2012
渡 壁 長 則 (タイハツ労組)			松 倉 信 之 (パナソニック溶接システム労組)		
園 田 隆 弘 専従(松下電器労組)		森 貞 真 一 非専(タイハツ労組)		香 川 功 専従(Uiゼンセン)	



北河内地域労福協

守口市・枚方市・寝屋川市・大東市・門真市・四條畷市・交野市

大阪労働者福祉協議会設立60周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。時代と共に活動内容も変化していく中で、1997年から1999年にかけて大阪府内に5地域労福協が設立され、地域に密着し、勤労者とその家族の地域福祉の充実強化に向けて、それぞれの地域で諸活動が展開されております。北河内地域労働者福祉協議会は、大阪労福協の一員として大阪労福協60周年を機に各地域、各行政区、事業団体等と連携を密にし、地域福祉の充実強化に取り組んでまいります。



北河内地域労働者福祉協議会
会長 松尾 誠 二

地域に根付いた労働者福祉運動を目指す地域労福協を展開するにあたり、当時の松浦武大阪労福協会長の提案で地域労福協設立準備委員会を発足、地域労福協のあり方を確立すべく会合を重ね、1997年に大阪で最初に設立されたのが北河内労福協である。

北河内労福協の大きな特徴として行政との連携による労働者・地域住民支援活動がある。2000年度に枚方市から委託を受けて失業者生活再建相談（2005年より多重債務相談）を開始したのを皮切りに、守口市（2002年～）と門真市（2003年～）は失業者等労働問題・生活再建支援相談（門真市は2008年より多重債務者相談）、また地域就労支援として守口市（2003年～）・門真市（2003年～2007年）・寝屋川市（2004年～）から委託を受けている。現在は3市（守口市・門真市・寝屋川市）において委託を継続中である。なお、枚方市多重債務相談は2005年からは北河内労福協独自事業である（大阪労福協・枚方市より補助金）。多重債務相談件数は年間300件を超える利用があり、相談者からは大変感謝されている。また北河内労福協の事業に対し7市より補助・負担金が交付されている点



結成総会 1997年9月18日

北河内地域労働者福祉協議会 〒573-0027 枚方市大垣内町2-7-16 小北ビル4階 TEL: 072-861-6060 FAX: 072-861-6061

役員変遷	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
会長	野谷 浄 専従(枚方市教組)						野口正男 (松下AV連合)		野中孝泰 (松下乾電池)	
事務局長	野口正男 非専(松下FAV門真)					北森 稔 非専(松下FAV門真)				

(旧事務所) 大阪府枚方市新町2-1-5 メセナひらかた会館1階(2006年移転)
大阪府枚方市新町2-1-7 枚方市教職員組合内(1998年移転)

大阪府枚方市岡東町12-1-201 サンプラザ1号館2階(2002年移転)



も特徴の一つである。1999年より毎年開催し、リピーター参加者も多い囲碁・将棋大会も枚方市と共催の事業である。また、同じく1998年から毎年開催している美術展は開催市との共催で、絵画のみならず、書・写真・工芸など多分野にわたっていることも特徴である。これらのように広範な地域活動についても行政と連携、継続的に開催することで地域に定着した事業となっている。

地域の人々を対象にした活動の中で、印象的なものとしてはホームヘルパー養成講座（2001,2002年）があげられるだろう。枚方市・門真市・四條畷市と共催したこともあり、募集人数の5倍近くの応募があった。北河内労福協が府の認可をとって事業所としておこなった点も画期的であった。また、北河内労福協設立当初から続く「愛の置き傘」運動（京阪8駅・JR4駅）は、いまでは自己循環的に継続されており、地域に根付いた活動の例として特記されるものである。また、「ウキウキまんだカーニバル」は地域からの出演者や芸能人の演技を1000人超の観客を集めて開催された（1,2,3,5,10周年記念行事、北河内7市後援）。

外部への発信としては大阪5地域労福協の中で唯一独自の機関紙を定期的に発行（年2回）し、その中で事業報告や各種情報提供のほかに組織訪問のコーナーを設け、地域の組織の紹介に努めている。また、市からの委託や補助金を受けている相談事業は市の広報誌等で広報される。そのため、より広範に確実に地域の人々に事業のPRを行っている。



第2回ボランティア講習会（1998年10月22日）



第6回料理教室（2006年11月14日）



10周年記念ウキウキまんだカーニバル（2007年11月30日）



第10回将棋大会（2008年11月2日）



第11回美術展（2009年1月21～25日）



ハイキング（1999年5月22日）

<http://www.osakarofukukyo.or.jp/chiiki/kitakawachi.shtml>

2007	2008	2009	2010	2011	2012
中武 貞勝 (コマツユニオン大阪)			中西 幸夫 (クボタ枚方労組)		松尾 誠二 (京阪電鉄労組)
北 森 稔 専従(松下労連)			北 森 稔 専従(パナソニック労連)		



河内地域労福協

東大阪市・八尾市・松原市・柏原市・藤井寺市・羽曳野市・富田林市・河内長野市・
大阪狭山市・堺市美原区・河南町・千早赤阪村・太子町



結成総会 1998年3月10日

大阪労福協 60周年を地域の立場から共に祝いた
いと思います。

河内地域労福協は、活動開始してから14年を数え、
微力ながら河内地域の労働者福祉向上に向けて一翼
を担ってきました。

地域組織の独自性を発揮しつつ、大阪労福協と連
携しながら、ボウリング大会、みかん狩り&BBQ、
スポーツ観戦など、みんなに喜ばれる活動や行事を
企画し開催してきました。

今後も、より一層、地域で支えあえる組織目指し
て頑張りますので、よろしくお願いします。



河内地域労働者福祉協議会
会長 中谷 広 孝

「勤労者事業団体の事業を推進し、金融・共済・住宅・
信用保証・生協・旅行などの普及を通じて豊かな暮らしづ
くり貢献すること」を目的に1998年3月に河内地域労働
者福祉協議会は結成された。「よく学び、よく遊ぶ」をモッ
トーに、地域の労働団体との共催や関係団体と連携しながら
、学習会や講演会、料理教室、施設見学、町探訪、みか
ん狩りやボウリング大会など、文化・スポーツなどのイベ
ントを始め、要望に応じて幅広く活動している。

地域に向けての福祉運動の一環として「ホームヘルパー
2級養成講座」を2002～2004年に開催した。また、地域
のNPO団体と提携して事業に取り組む試みもあり、2002
年には「まちまちメッセ」に参加、「シニアシュミレーショ
ン体験コーナー」をNPOケアネットワーク大阪と共催した。
毎週金曜日に障がい者とスイミングする会を定例にもつな
ぎ継続的な運動もあった(2002)。高齢者福祉についての
勉強会(「家族に介護が必要になった時のHow to」2003等)、
老人養護施設研修見学会(特別養護老人ホーム「ビオスの

河内地域労働者福祉協議会 〒579-8058 大阪府東大阪市神田町10-14 TEL: 0729-87-8822 FAX: 0729-87-9944

役員変遷	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
会長			中川 馨 (コクヨ労組)				木全 憲美 (シャープ労組八尾)			
事務局長		田中 久孝 非専(東大阪市労組)			河崎 美保子 専従(東大阪市教組)			中谷 広孝 非専(近畿車輛)		中辻 政一 非専(NTN金剛)



丘・ケアハウス「和久田苑」・グループホーム「仁の郷」2004等)、マルチライフ支援事業視察研修会（関西盲導犬総合訓練センター）など、福祉関連の勉強会を重ねている。また、「多重債務に陥らないために」（2004）のように近畿労働金庫との連携による講演会も開いている。これらの研修会は河内労福協の幹事会と連関させることも多く、ただ会議のためにのみ参集するのではなくさらなるひろがりを持つ機会とするべく工夫している。その延長として、中国交流研修の派遣がある。また、河内労福協の特徴として、退職者会などOBとの連帯があげられるだろう。

2003年から毎年開催している家族参加行事である「みかん狩り」（上ノ太子みかん園）は200人を超える参加者のある人気企画である。近年はバーベキュー、昨年もちつき大会もあわせて催している。2011年からはスポーツ観戦も企画しており、200席ものチケットが売りきれの状況である。同じく毎年開催している企画として料理教室がある。当初の年2回から年1回になったが、各国料理など毎回テーマを持たせることでバラエティーを持たせている。

2004年から開いているチャリティー・ゴルフコンペの浄財はボランティア基金として各種の募金にしている。2011年5月には震災復興支援チャリティー・ゴルフコンペを行い、3～4月に行った震災復興支援街頭募金と連動して取り組んだ。2011年に北河内地域協が支援しているカンボジアのワット・ロカー小学校の慰問を行い文具や衣服を寄贈した。



第6回定期総会（2002年6月）



労美祭（2005年10月）



料理教室（2006年2月）



ボウリング大会（2010年7月）



カンボジア（2011年7月）



スポーツ観戦（2012年3月）

<http://www.osakarofukukyo.or.jp/chiiki/kawachi.shtml>

2007	2008	2009	2010	2011	2012
	木全 恵美 (シャープ労組八尾)			中谷 広孝 (近畿車輛労組)	
	中辻 政一 (非専(NTN金剛))			椎原 俊郎 (専従(JAM大阪))	



大阪南地域労福協

堺市・高石市・和泉市・泉大津市・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・阪南市・泉南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町



第2回定期総会 (1999年8月30日) (1998年8月10日設立)

大阪南労福協は連合大阪南地域協と各種事業団体とで構成され、具体的な活動は堺、泉州、泉南の3つの地区協で展開しています。

地域労福協の活動は構成組織の会員相互の繋がりを目的とした行事の開催などがありますが、もっとも重要なことは働く人全体を対象としたワンストップサービス（総合生活支援サービス）の地域活動であります。共済機能・生活相談機能・退職者の拠り所機能などの相談員が常駐し、生活相談はなんでもすぐに受けられる体制が整っています。地域の自治体とも連携しながら、人と人との繋がりを大切にしていける「絆」をモットーにこれからも頑張っていきます。



大阪南地域労働者福祉協議会
会長 鎌倉幸信

大阪南部の広域な地域を担当する大阪南地域労働者福祉協議会（大阪南労福協）は1998年8月に結成された。中小企業の多い地域でもあり、スタッフが足を運んで地域とのつながりを形成してきた。中小企業勤労者を対象とした各市の福祉サービスセンター間の連携についても、大阪南労福協が中心となって交流をはかってきた。

大阪南の特徴のひとつとして、地区の独立性が挙げられるだろう。大阪南労福協は現在堺・泉南・泉州の3つの地区から構成されるが（2007年改組）、各種イベントがそれぞれの地区で企画されている。「地引き網体験」・「ぶどう狩り」・「みかん狩り」のようにファミリーイベントも各地区で開催してきた。近年は「健康づくりイベント」（2010・2011）「ポップサーカス in SAKAI 大阪南地域協議会特別公演」（2012）のように地域全体としての取り組みを進めている。

大阪南の地域力をよく表す行事としては2000年から始まったクリーンキャンペーンが挙げられる。当初は1拠点だったが、全地区に拡大、2004年には各地区が同日に旧国道

大阪南地域労働者福祉協議会 〒590-0061 大阪府堺市堺区翁橋町1-9-17 ユニオンセンター堺2階 TEL：072-223-9629 FAX：072-223-9229

役員変遷	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
会長		中西喜夫 (堺化学労組)			森本 實 (クボタ堺労組)				鎌倉幸信 (大阪ガス労組)	
事務局長		奥 泰孝 非専(大阪ガス労組)		鳥羽政光 非専(フクスケ労組)				平田茂徳 専従(クボタ堺労組)		

(旧事務所) 堺市堺区戎島町2-62 日鉄ライフビル6階 (2009年9月移転)



26号線沿線を清掃、南大阪を「1本に通す」試みはまさに点から線への活動で大阪南の特色が現れているといえるだろう。毎年開催されるこの行事は、ごみ回収を行政が担当しており、経営者協会の協力も得るなど、地域一体の取り組みであることも強調される場所である。

大阪の各地域協で行われているチャリティゴルフコンペだが、大阪南労福協がもっとも早く取り組んだもので規模も大きい。当初は堺市緑化基金やゆとりふれあい基金などにチャリティ金を募金していたが、2001年以後は「インドネシア・ジャワ島大地震カンパ」(2006)・「宮崎県口蹄疫災害義援金」(2010)など時宜にあわせた募金活動を行っている。ペットボトルのキャップを回収してワクチンに交換する「ECOCAP運動」(中央労福協)にも取り組んでおり、2009年からの回収総数は160万個を超えている。これは地区レベルからの取り組みが結集されたがゆえに達成された数である。

地区のとりまとめ役という役割の観点から、若手の交流を目的とした「ユースイベント“デザイン都市神戸”を学ぼう」(2009)や会合に出席の機会が少ないスタッフを対象とした「労組事務担当者交流会」(2011・2012)など人事交流にも力をいれている。



いつも賑やかなボウリング大会 (2002年10月24日)



テーブルマナー教室 (2005年7月25日)



ユースイベント「デザイン都市神戸」を学ぼう (2009年10月3日)



第21回チャリティゴルフ (2011年12月6日)



ポップサーカス (2012年4月15日)



第1回健康づくりイベント (2010年11月6日)

<http://www.osakarofukukyo.or.jp/chiiki/osakaminami.shtml>

2007	2008	2009	2010	2011	2012
------	------	------	------	------	------

鎌倉幸信
(大阪ガス労組)

平田茂徳
専従(クボタ堺労組)

宮田浩二
専従(クボタ堺労組)



現 役 員

2012年6月1日現在

会 長	川 口 清 一	連合大阪会長・大阪社会運動協会会長兼理事長
副 会 長	多 賀 雅 彦	連合大阪事務局長
	渡 壁 長 則	近畿労働金庫常務理事・大阪地区統括本部本部長
	中 井 宏 明	全労済大阪府本部本部長
	赤 本 忠 司	大阪社会運動協会副理事長
専務理事	平 田 茂 徳	JAM大阪特別執行委員
理 事	森 原 功 裕	UIゼンセン同盟大阪府支部次長
	高 橋 篤	自治労大阪府本部書記長
	篠 原 浩	電機連合大阪地方協議会事務局長
	中 井 寛 哉	JAM大阪副書記長
	宮 垣 和 夫	自動車総連大阪・奈良地方協議会事務局長
	米 津 康 夫	私鉄総連関西地方連合会書記長
	赤 木 克 己	電力総連大阪府電力関連産業労働組合総連合事務局長
	石 田 精 三	日教組大阪府教職員組合書記長
	川 北 和 一	JR連合大阪府協議会事務局長
	山 本 修	連合大阪副事務局長
	柴 橋 圭 介	大阪府生協連合会副会長理事
	服 部 和 美	アルファ・オメガ代表取締役社長
	山 中 昭 彦	近畿勤労者互助会会長
	須 川 伊和夫	大阪市地域労福協会会長
	松 倉 信 之	北大阪地域労福協会会長
	松 尾 誠 二	北河内地域労福協会会長
	中 谷 広 孝	河内地域労福協会会長
	鎌 倉 幸 信	大阪南地域労福協会会長
監 事	山 田 敦 雄	情報労連大阪地区協議会事務局長
	島 本 麻奈美	連合大阪総務部長
事務局長	岩 野 一 彦	員外
顧 問	石 原 利 昭	
	松 浦 武	
	前 川 朋 久	
	伊 東 文 生	
	山 田 保 夫	



歴代三役

2003(平成15)年5月28日(第40回)～2011(平成23)年10月31日(第49回)

会 長

前川 朋久
1999(平成11)年5月～2004(平成16)年5月
伊東 文生
2004(平成16)年5月～2007(平成19)年10月
山田 保夫
2007(平成19)年10月～2011(平成23)年10月
川口 清一
2011(平成23)年10月～現在

副会長

水上 義博
2002(平成14)年5月～2005(平成17)年5月
(1999(平成11)年5月～2000(平成12)年5月)
上田 公美
1999(平成11)年5月～2004(平成16)年5月
真場 成人
2000(平成12)年5月～2004(平成16)年5月
伊東 文生
2000(平成12)年5月～2004(平成16)年5月
山口 和郎
2002(平成14)年5月～2005(平成17)年5月
尾山 博
2003(平成15)年5月～2007(平成19)年5月
藤井 博
2004(平成16)年5月～2006(平成18)年5月
2007(平成19)年5月～2011(平成23)年10月
石橋 嘉人
2005(平成17)年5月～2007(平成19)年5月
高濱 秀一
2004(平成16)年5月～2007(平成19)年10月
篠原 偕子
2004(平成16)年5月～2006(平成18)年5月
山本 和彦
2004(平成16)年10月～2005(平成17)年5月
脇本 ちよみ
2006(平成18)年5月～2009(平成21)年10月
赤本 忠司
2006(平成18)年5月～2010(平成22)年10月
2011(平成23)年10月～現在
上田 一男
2007(平成19)年10月～2009(平成21)年10月
多賀 雅彦
2009(平成21)年10月～現在
中世古 廣司
2009(平成21)年10月～2011(平成23)年10月
渡壁 長則
2011(平成23)年10月～現在
中井 宏明
2011(平成23)年10月～現在

専務理事

古石 栄造
1997(平成9)年5月～2005(平成17)年5月
山本 和彦
2005(平成17)年5月～2010(平成22)年10月
赤本 忠司
2010(平成22)年10月～2011(平成23)年10月
平田 茂徳
2011(平成23)年10月～現在

事務局長

三野 直
2004(平成16)年4月～2007(平成19)年3月
瀬戸 良寛
2007(平成19)年4月～2010(平成22)年10月
岩野 一彦
2010(平成22)年10月～現在

顧問

石原 利昭
1986(昭和61)年5月～現在
前川 朋久
2004(平成16)年5月～現在
(1987(昭和62)年5月～1999(平成11)年5月)
岡本 知明
1996(平成8)年5月
～2008(平成20)年11月 逝去
前田 修
2000(平成12)年5月
～2007(平成19)年3月 逝去
柴田 範幸
2003(平成15)年5月
～2009(平成21)年4月 逝去
松浦 武
2004(平成16)年5月～現在
伊東 文生
2007(平成19)年10月～現在
山田 保夫
2011(平成23)年10月～現在



一般社団法人
大阪労働者福祉協議会

〒540-0031 大阪市中央区北浜東3番14号
エル・おおさか
(大阪府立労働センター) 4階
TEL (06) 6943-6025 FAX (06) 6943-5347